

第 25 回映像メディア英語教育学会

九州支部研究大会 2023

The 25th ATEM Conference of Kyushu Chapter



[日時 Date] : 2023 年 8 月 26 日 (土)

開場 : 13:00 開会 : 13:30

August 26th, 2023

Open : 13:00 Start : 13:30

[会場 Place] : 佐賀大学 本庄キャンパス 教養教育 2 号館

Saga University, Honjo Campus, Building-2 of General Education



佐賀大学へのアクセス (Access to Saga University, Honjo)

佐賀大学 (本庄キャンパス) : 〒840-8502 佐賀市本庄町 1

交通案内 (佐賀駅→佐賀大学)

佐賀駅バスセンターからバスで約 15 分、タクシーで 10 分

「4 番のりば」から市営バス

【4 番】佐賀女子短大・高校線 (中央大通り・辻の堂・佐賀大学前経由)

【11 番】佐賀大学・西与賀線

【12 番】佐賀大学・東与賀線

【63 番】佐賀女子短大・高校線 (紡績通り・与賀町・佐賀大学前経由)

で「佐賀大学前」下車

詳細は佐賀大学ホームページより。



<https://www.saga-u.ac.jp/access/>

車両入構について

- 構内への入構は料金が必要です。出構時に料金精算を行っております。入構から 24 時間以内の入構料金は 200 円です。(以降 24 時間毎に 200 円加算)
- 会場 (教養教育 2 号館) への最寄りは「美術館」横の駐車場です。

学内マップ (Campus Map)



会場のある教養教育 2 号館は、セブンイレブン近くの正門に入ってすぐの建物です。美術館のすぐ向かいです。車でお越しの方は美術館横駐車場がおすすめです。

キャンパスマップの全体図は以下より。



http://www.shisetsu.admin.saga-u.ac.jp/00_pdf/1.universalmmap-honjo.pdf

第25回映像メディア英語教育学会九州支部研究大会

[会場 Place] : 佐賀大学本庄キャンパス教養教育2号館1階

(Saga University, Honjo Campus, Building-2 of General Education, 1F)

会場: 2103AL 教室 休憩室: 2108AL 教室

[日程 Date] : 2023年8月26日(土) (August 26th, 2023)

13:00~ 受付開始 Registration (2103AL)

13:30~13:55 開会式・支部総会 Opening Ceremony (2103AL)

司会: 福田 浩子

・開会の辞 支部長: 吉村 圭

・支部総会

2022年度会計報告&2023年度予算案 事務局長: 石田 もとな

2024年度運営組織案 支部長: 吉村 圭

14:00~16:25 研究発表 Sessions (2103AL)

1. 映画の台詞から見る語の多義性と意味認識の原理—acceptを基に—

松中 完二 (久留米工業大学)

2. 日本人英語学習者にとっての「通じる英語」とは—リングフランココアに基づいて

中山 聡 (西南学院大学大学院)

3. 映画「Desert flower」から学ぶ世界の現実

石田 もとな (鹿児島女子短期大学)

4. 『ユージュアル・サスペクツ』を用いた文学の技巧の教授法—語りと視点—

砂川 典子 (北海道教育大学釧路校)

5. 『緋文字』のリメイク版『小悪魔はなぜモテる?!』の宗教・ジェンダー的視点

村田 希巳子 (北九州市立大学)

16:30~16:40 閉会式 Closing Ceremony

・閉会の辞 担当: 林 裕二

16:40~17:00 親睦会 Tea Time

17:30~ 懇親会 Party

懇親会について

会場: 海鮮料理 さかなや道場 佐賀駅南口店
佐賀県佐賀市駅前中央1-4-1 MIビル

【発表1】 Session1 14:00-14:25

映画の台詞から見る語の多義性と意味認識の原理—accept を基に—

松中 完二（久留米工業大学・准教授）

司会：吉村 圭

意味研究にはすべからく以下の2つの問題が付きまとう。

①語の多義性の理屈が教育現場において、何の役に立つのか？②辞書を引いても語の意味が多すぎて、学生は適切な意味とそれぞれ関連性が分からない。

発表者は accept の例を取り上げ、この二つの問題の解決にあたる指針を報告する。accept は「受け入れる」という概念を基に広範な対象を取り、多義を形成する。しかし「受け入れる」対象物の属性により、その意味認識は大きく拡張を強いられる。例えば、相手の謝罪を受け入れるような場合、それは容認という認識を生むが、相手の命令を受け入れるような場合には、従属という認識を生む。容認と従属では、意味の認識の仕方は正反対とも言ってもよい現象である。しかしながら現実問題として、accept 一語でこうした正反対の認識を生む意味の有契性や関連性について、これまで言語学の世界では、意味の視点から何ら有効な解答を示してはこなかった。こうした認識の相違の決定には、主体が受け入れる対象の属性と主体との関係が大きく作用している。そしてその根底には、accept という語によって我々が共有する認識の認知機構が大きく関与している。その部分を発表者は独自に「中心的概念」という枠組みと認知図を用いて、accept の多義構造と、それを生む中心的概念について考察する。またその実証に映画の台詞を用いるのは、英語の台詞は場面を伴い、それによって多義の宝庫であるため、映画の台詞を意味論の用例として用いる利点についても論じる。

【発表2】 Session2 14:30-14:55

日本人英語学習者にとっての「通じる英語」とは - リンガフランカコアに基づいて

中山 聡（西南学院大学大学院・修士課程）

司会：吉村 圭

Jenkins がリンガフランカコア（LFC）という世界規模の英語の発音の指標を提示してから20年余りが経過する。この指標は発音の明瞭性を妨げる要因をピックアップして作られたものであるが、果たしてこの指標は、現在の日本人英語学習者の発音にも当てはまるのだろうか。発表者は修士論文へ向けた、日本人英語学習者の英語の発音の予備調査を行った。その内容と結果・考察を提示する。また、LFC や予備調査の結果、日本人の英語の発音について取り上げられている YouTube の内容を元に、「通じる英語」とはどのようなものか、検討する。

【発表3】 Session3 15:00-15:25

映画「Desert flower」から学ぶ世界の現実

石田 もとな（鹿児島女子短期大学・准教授）

司会：秋好 礼子

2009年公開の「Desert flower」はソマリア出身のモデル、ワリス・ディリーの自伝をベースに制作された映画である。望まない結婚を強いられ逃げ出した少女が、見いだされてスーパーモデルになっていくシンデレラストoryではあるが、同時にアフリカの女性たちが置かれている状況の厳しさを知らしめる作品でもある。望まない結婚の押し付け、FGM（女性器切除）等は、宗教・文化・その国の習慣が複雑に絡んでおり、基本的人権の侵害でありながら他国の人間が非難することがあたかも文化への無理解のように扱われてしまうという側面がある。日本においては、宗教や異文化について、義務教育では、あまり知る機会がなく、英語教育においてもFGMを理解するために不可欠なgenitals(生殖器)という言葉は学校で学んだ記憶がない状態である。問題を捉えることなしに改善は不可能であることを考えると、世界の現状を多方面から学ぶ必要があるのではないだろうか。

【発表4】 Session4 15:30-15:55

『ユージュアル・サスペクツ』を用いた文学の技巧の教授法—語りと視点—

砂川 典子（北海道教育大学釧路校・准教授）

司会：秋好 礼子

文学、特に小説の様々な技法を学生に教える際、いわゆる学生の「文学離れ」が叫ばれて久しい昨今では困難なことがしばしば生じる。今回の発表では、基本的であり、かつ複雑な文学の二つの技法—語りと視点—を、『ユージュアル・サスペクツ』（1995）を用いて教授する可能性を考察する。

ブライアン・シンガー監督『ユージュアル・サスペクツ』は、真犯人探しがテーマの古典的なミステリー映画であるが、五人の容疑者かつ仲間たちが仕掛ける複数の犯罪が巧妙でスピーディなストーリー展開で描かれたクライムサスペンスである。この映画には観客を騙すトリックが様々に仕掛けられているが、その中でも文学と共通するテクニックは、大まかに分類すると、語り・視点・時間の操作・伏線である。今回は、双方が絡み合っていることから、語りと視点に焦点を当て、その複数かつ複雑な語りと視点の操作を分析する。

【発表 5】 Session5 16:00-16:25

『緋文字』のリメイク版『小悪魔はなぜモテる?!』の宗教・ジェンダー的視点

村田 希巳子（北九州市立大学・非常勤講師）

司会：松尾 祐美子

アメリカ植民地時代の抑圧的な宗教社会における姦通を描いたホーソーン代表作『緋文字』のアダプテーションである『小悪魔はなぜモテる?!』(2010)を取り上げる。原作のヘスター・プリンとその恋人の牧師を追い詰めるピューリタンは、映画では主人公とその仲間を矯正しようとする学校や「敬虔な」大人たち、SNS に翻弄される学生たちに置き換えられている。発表では、原作『緋文字』にもふれながら、映画に表象されているジェンダーや宗教問題、また LGBTQ の差別問題についても検証していく。